

こなんSSNライフサポート3カ年プラン（戦略）

2000.5.12

こなんSSNは、サロンを中心とした共同作業所として満3年が経過した。メンバーの希望に添ったサロン活動やレクリエーションをかなり多く取り入れて活動を行ってきた。その過程においてメンバーの主体性を高め、休日の余暇活動の展開へと小グループ活動として発展している。しかし、こうした小グループ活動や新たな内職作業、自主製品作りなどの作業所の活動の幅が広がる中で、それを担うメンバーの役割分担という課題も出てきている。メンバーにより作業所を利用する意味は様々であるが、個々の利用目的や要望、役割などに応じた生活援助も今後必要になってくる。

グループホーム（Dear House）が今年4月に開設されて、当面の生活の場の提供はできたものの、メンバーの様々な生活上の問題には対応し切れていない現状がある。家族の高齢化に伴う将来への不安や問題も家族、メンバーの双方に生じている。こうした状況は、今後ますます増加してくると思われる。当然ホームヘルプ事業への要望も多く、それに対応できる施設の整備も必要になってくる。

また、就労を望むメンバーも多くなり昨年は、就労支援のネットワークを関係機関で持ち職域開発援助事業を県下初の作業所が担う試みも行った。生活支援の中で就労の問題は避けて通れない問題であり、こうした課題への関わりも今以上のネットワーク化による体制作りが必要になってくる。

今年2月の韓国研修のファウンテンハウス（クラブハウス）モデルや3月の朱雀工房での研修のヴィレッジモデル、全国各地で展開されているセルフヘルプグループモデルなども参考に、こうした課題に対応する生活支援の体制作りが必要になってくる。しかし、現状の任意団体の組織体制や施設の規模では、脆弱的で無理もあり、まずは運営組織の基盤整備強化と施設整備が急務である。そのため、こなんSSNライフサポート3カ年プラン（戦略）として、次のものを整備していく必要がある。

1. 運営組織の基盤強化として、社会福祉法人を設立・・・H14年4月を目標

H12年4月社会福祉事業法の改正により資産要件の緩和のため、1000万円の資産必要、土地所有は、借地でも可能になったが、できれば自己所有か市からの無償貸与を検討

2. 施設整備として、授産施設、生活支援センター、グループホーム（女性）を開設

・・・H14年10月を目標

社会復帰施設の整備費負担 国1/2、県1/4（1/4）、市1/8
グループホームは現作業所を利用

3. 新たな事業としてH14年より市町村が行う居宅支援事業のホームヘルプ事業を生活支援センターに委託

・・・H14年10月を目標

生活支援センターを中心に、湖南病院生活支援センター、援護寮、こなんくらぶ、Dear Houseとの連携でホームヘルプ事業、ショートステイ事業の展開（H13年度草津保健所管内でのホームヘルプモデル事業に対してのアピール活動）

4. 湖南地域以外に、共同作業所の開設（八日市）

こなんSSN活動の県域での展開

こなんSSN運営委員会か社会福祉法人か任意団体

5. 県内の精神保健福祉士の組織化

6. 現在のこなんSSN活動（サロン、作業）の見直しと新たな枠作り

※特に1・2については重点目標とし、今年度より運営委員会内にライフサポート検討会を設置・準備していくこと